新潟教育研究所

令和２年６月４日発行　第 44 号

公益財団法人 新潟教育会
新 潟 教 育 研 究 所

〒951-8104　新潟市中央区西大畑町590-3　新潟教育会館　TEL・FAX 025－222－2971
URL http://kyouikukai.jp　E-mail kenkyujo@kyouikukai.jp

今求められるカリキュラムとは
－コンピテンシー・ベースのカリキュラムとは何か－

愛媛大学大学院
教育学研究科 准教授
兵 藤 清 一

2020(令和２)年は，東京オリンピック・パラリンピックの開催，小学校学習指導要領の全面実施等，日本社会の成長にとって大きな画期となる予感があった。しかし，新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより，日本だけでなく世界各国が危機的状況に陥っており，誰も全く予測していなかった事態が起こっている。全人類が未曾有の危機に直面しているのである。「Beforeコロナ」と「Afterコロナ」とでは，地球社会の様相が大きく変化することが考えられるが，どのように変化するかを予測することは大変困難である。

このように複雑で予測困難な時代を生きていく子どもたちに，学校教育に携わる私たちがなすべきことは「未来を創り出す力」「未来を切り拓いていく力」を確実に育んでいくことである。そのため，それらの力(資質・能力)を育成するコンピテンシー(※1)・ベースのカリキュラム(Competency-Based Curriculum)が求められるのである。

では，コンピテンシー・ベースのカリキュラムとは何か。この問いを考えていくことが，その開発の第一歩であり，各学校のカリキュラム開発に資することにつながっていくと考え，カリキュラム研究の一端を示したい。

これまでのカリキュラムは，各教科等において「教師が何を教えるか」という観点から，教えるべき内容(コンテンツ：Content＝知識・技能)に沿って順序立てて整理した，いわゆるコンテンツ・ベース(Content-Based)となっており，目標に示されたコンピテンシーとコンテンツの関係や結び付きが不明確であることが課題であった。この課題の解決がコンピテンシー・ベースのカリキュラムへのパラダイム転換につながるのである。

では，その両者の関係や結び付きをどのように捉えればよいのか。それは，単純に二項対立と捉えるのではなく，緊密に結び付いて相互に関係し合いながら共に身に付く相互依存的かつ促進的な関係と捉えることが重要である。すなわち，コンピテンシーを使うことでコンテンツとしての知識がつながって理解が深まり，使うことでコンピテンシー自体も育っていくという関係である。これはOECD-DeSeCoのキー・コンピテンシー概念に即しており，コンテンツ(知識)とコンピテンシー(資質・能力)を個々ばらばらに捉えるのではなくそれらをホリスティック(総体的)に捉え，相互に関係し合って発達していくとする考え方である。

以上のことから，コンピテンシー・ベースのカリキュラムでは，その基盤を，コンテンツの理解にとどめるのではなく，コンテンツとコンピテンシーを結び付け，調和的に融合した「総体としてのコンピテンシー(Holistic Competencies)」(※2)の育成とすることが求められるのである。つまりコンピテンシー・ベースのカリキュラムとは「総体としてのコンピテンシー」，言い換えれば「結び付いたコンテンツとコンピテンシー」を基盤としたカリキュラム(Curriculum Based on Connected Content and Competency)なのである。

※１　本稿では，コンピテンシーを，OECD-DeSeCoのキー・コンピテンシー概念に即して，人間の全体的な能力と捉え，中央教育審議会答申(2016)において示された「資質・能力」概念と同義と捉えている。
※２　「総体としてのコンピテンシー」の内的構造としては，「資質・能力の三つの柱」(「知識・技能」，「思考力・判断力・表現力等」，「学びに向かう力・人間性等」)を含んでおり，コンテンツとしての「知識・技能」，コンピテンシーとしての「認知能力」，「非認知能力」を構成要素としていると考えている。

音楽との豊かな関わりを子供たちに届けたい

新潟教育研究所 教育アドバイザー
種 村 啓 子

はじめに

数年前，合唱コンクールの審査の依頼があり中学校に出向いた。心を一つにしてクラス合唱を創り上げた生徒の素晴らしさは言うまでもないが，忘れられないのは，全員合唱「群青」を前に，何かしらの思いが溢れ出して泣いておられた校長先生の姿だ。

私たちの生活の傍らにはいつも音楽があり，そこに「私の思い」が重なり，感動し勇気付けられることがある。そんな音楽との豊かな関わりをすべての子供たちに届けたいと願いながら，これまで大切にしてきた二つのことを紹介する。

1　音楽の力も積み重ねて育てる

「音楽の宝箱」という箱をいつも創った。子供たちが発見した表現の工夫を詰め込み，引っ張り出してはより進化させて詰め込む箱だ。学級担任である間は持ち上がりであれば続けて一つの箱に詰めた。音楽専科や管理職として入教したときは，宝を音楽室で迎える子供たちと共有した。

例えば，歌うことを身体いっぱいに楽しむ１年生の子供たちに「どならないで」と言葉で指導することは，何よりも大切な「歌いたい」という意欲を奪ってしまうことになるかもしれない。また，子供たちが今後主体的に活用しようとする表現の工夫としては，その言葉は残りそうもない。

子供は，曲にある歌詞を「私が見たり感じたりしたこと」と重ねて，「黄色いタンポポはかわいいよ。風にふわふわ揺れるように歌うよ。」と言う。そのときの発声や表情やしぐさを，発見した子供の言葉で箱詰めすることを大切にした。

いずれはそれが，音色や速度，強弱などの要素への気付きとなり，音楽表現の工夫に働くものとして積み重なっていく。そして，新たな音楽に出会ったときは，異なる要素や要素同士の関連へと知覚の広がりが生まれると信じた。

音楽に限らず，「学ぶことは楽しいこと」でなければならない。知的好奇心に満ちあふれた子供たちを満足させる学びの楽しさはそうそう簡単に創れない。今日の授業がこれまでの授業とどうつながり，これからの授業とどうつながるのか。積み重ねて育てることを大切にしてほしい。

2　音楽の力は日々の生活の中で育てる

「小学校の先生と言えども教科専門性をもつことが重要」と先輩から習った。音楽を選択した。ただ単に音楽が好きだった。「学級経営も音楽で行えるか」と，先輩の言葉があった。学級目標を「ハーモニー」とし，「一人一人は皆異なり，だからこそ，心合わせれば素晴らしい響きになる」と伝えた。

朝も帰りも子供たちと歌った。歌いながら健康観察をした。歌いながら子供の関係性に気付くこともあった。音楽で子供と子供がつながることを願った。

生活の中にある音楽と授業の音楽は子供に音楽の力を育む両輪であると実感している。朝の歌一つをとってもあなどってはならない。子供に歌わせておいてそれでよしとするようなことであってはいけない。何を歌い何のために歌うかを考えなければならない。朝読書も同じ。清掃も同じ。意味ある活動として一緒に真剣に行ってこその実りである。日々の生活が音楽との豊かな関わりの中で営まれることを大切にしてほしい。

終わりに

中堅と言われる頃，県音楽研究会の指定を受けて授業を公開した。口が開かない子供がいた。様々な作戦を立てたが成果はさっぱりだった。卒業後に母親が，「子供が，先生の音楽は楽しかったと今でも言います。」と教えてくれた。無理に口をこじ開けなくてよかったと思う。音楽との豊かな関わりが届いていたのなら，とてもうれしい。

「新型コロナウイルスあれこれ」

新潟教育研究所 研究員
宮川由美子

はじめに

「私たち，人工呼吸器を外される側だね。」コロナ禍による外国の医療崩壊が報じられた頃の，老母と交わしたブラックジョークである。この頃は，まだ，高をくくっていたのだが，瞬く間に他人事ではなくなっていった。神戸在住の医師である叔父からのマスク不足を嘆く声，年明け二日の日に，早朝から並んでチケットをゲットしたコンサートの中止・・・。

1　「新型コロナウイルス」とカタカナ用語

少々粘り気のある液体に固形物を落とすと，周りが跳ね上がって円形の突起が現れる様子。初めて「新型コロナウイルス」を映像で見たときの私の第一印象だ。ラテン語で「王冠」という意味があるという。

河野太郎防衛相が「クラスター集団感染，オーバーシュート感染爆発，ロックダウン都市封鎖ではだめなのか」と質問したという。それに対する内閣府関係者の回答は「日本語で正確に言い換える言葉が見つからないため」であった。90歳にもうじき手の届く老母は疑問のカタカナ用語を，すぐに娘（私）に質問してくる。本来ならば，感染により重症化しやすい高齢者にこそ分かりやすく伝わらなければならない情報が，カタカナ変換で逆に伝わりにくくなっている。我が家では，それが毎日繰り返されている。

皆既日食の時に見られる太陽の大気層も「コロナ」であることを，理科で習った記憶がある。そのことを老母に教えても，こんがらがるだけだろう。そして，今日も，ソーシャルディスタンシング？パンデミック？と質問が飛んでくる。

2　「メディア授業」を私が？

週に１回３コマ，ある私立大学で，教員を目指す学生への講義を行っている。足かけ３年目，漸く講義のコツのようなものをつかみかけ，学生とのかかわりにも面白みを感じ始めてきた矢先のコロナ騒ぎ。日本各地から集う学生たちは学内に立ち入ることが禁止され，そこで登場したのが「メディア授業」であった。いつも講義を行う教室で，こちら側（私）は専用のタブレットを使い，あちら側（学生）はパソコンやスマートホンを使う形式でスタートした。たかだか90分の授業で，私の喉はガラガラになった。「普通の声でいいのですよ。」と助言されるが，あちら側に伝わらなければ困るという思いが強く，どうしても「声に力」が入ってしまう。

それなのに，はや翌週には教職員も学内の立ち入りを禁じられた。そして，私の通信方法は，郵便と電話とメールに戻ったのである。

3　お互いが生かされた不自由な環境

三月，学年の集大成という子どもたちの一番大切な時期に，コロナ防疫のための一斉休校。子どもはもちろん，保護者や教師の戸惑いと困り感はいかばかりであったろうか。我が家でも，老母が親戚の３年生の女の子を預かった。私が帰宅したら，玄関前の松の枝に虫取り網がくくりつけてあった。何事かと問うたら，バスケットゴールだと言う。廊下には巨大なてるてる坊主が横たわっていて，「コロナなくなれ」と願い事が書かれていた。普段はゲーム三昧であろう子が手作りおもちゃで過ごす時間は，彼女に何をもたらしてくれたのだろう。老母は疲れたと言いながら，娘が褒めないハンバーグを「○○ちゃんは美味しい美味しいとご飯をお代わりした。」と幾つか若返ったような笑顔だった。

おわりに

「この度のことで，僕たちの考え方や経済のあり方，文化のあり方が大きく変わるような気がしている。願わくば，行き過ぎたグローバリゼーションとか金融資本主義が少しずつスローダウンして，もっとゆとりのある，自分たちも自然の一部だということを感じられるような緩やかな世界になることを・・・。」坂本龍一さん談。

令和２年度新潟教育研究所の事業

Support, Information & Opinion

S. I. O. の充実をめざします

第12回教師力アップ講座

今年は「新型コロナウイルス対策」のために，学校の休校や分散登校が行われています。そのため，夏季休業中での様々な対応が予想されます。そこで，例年，夏季休業中に行われていました本講座の日程につきましては，**現段階では未定**です。決定しましたら，改めて日時を連絡します。

- **日時**　７月26日(日)の予定でしたが，延期の方向で検討中です。
- **会場**　新潟教育会館（新潟市西大畑町590-３）
- **内容**　第１講座

「学年に応じた外国語の授業づくり
～育てたい資質・能力を
どう育てるか～」

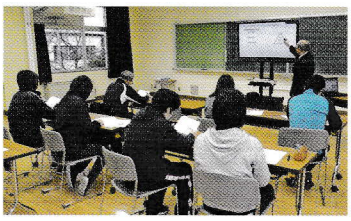
講師　村上　大樹 様
新潟市立味方小学校　教頭
小学校英語教育推進リーダー(新潟市)

第２講座

「特別な支援が必要な子がいる
学級経営・学習指導
～UDLの考え方を取り入れて～」

講師　古田島恵津子 様
加茂市立西小学校　校長

教育アドバイザー派遣事業の推進



教育アドバイザー派遣事業は，要請に応じて登録いただいている教育アドバイザーを派遣し，学校及び先生方を支援する制度です。校内研修はもちろんですが，授業研究会，ＰＴＡ講演会，研究サークルへの派遣申請が多く見られます。個人研修の要請にも応じますので，ご利用ください。

教育アドバイザーの選定は，「教育アドバイザーリスト」をご覧ください。12月には，令和２年度登録者を加えた「令和２年度版教育アドバイザーリスト」を送付します。

所報「新潟教育研究所」の発行

６月・12月・３月の年３回発行します。

第８回教育調査報告書の配布

第８回教育調査「小・中・特別支援学校職員の働き方に関する意識及び実態調査」へのご協力，大変ありがとうございました。この度，報告書がまとまりましたので，お手元にお届けいたします。

教育アドバイザーの派遣について

要請の仕方

校内研修で，研究会で，PTAの講演会で，研究サークル等で，「あの先生にアドバイスを受けたい，話をしてもらいたい」と思ったら……

1　まず事務局にお電話をください。
新潟教育会事務局 **025-222-2971** へ
招請したい教育アドバイザー，期日，内容，会場，参加人数等をお知らせください。

2　事務局が教育アドバイザーに連絡をとります。

3　依頼者に承諾の結果をお知らせします。

4　応諾であれば，依頼者が教育アドバイザーに詳細を連絡してください。

> ※　事前に教育アドバイザーと連絡を取り，結果を事務局にお知らせいただく形でも結構です。

派遣経費についての注意

謝金・交通費等は，年度内で連続して同一の教育アドバイザー派遣を要請する場合，初めの１回分だけを当方が負担します。２回目以降は利用者が負担してください。教育委員会からの要請はご相談ください。